

《入選》

多様性の時代に合った考え方

彦根総合高等学校 1年

椋本 萌右 さん

最近、テレビやネットの記事などでよく、「LGBT」や「多様性」という言葉を見かけます。メディアで大々的に取り上げられるようなことは自分とはかけ離れていて少し想像しづらいですが、思い返してみると自分の身近なことにも「多様性」によって変化したものはありました。それは自分がよく使う化粧品のパッケージです。

いつものように何気なく化粧品売り場に来て見ていると、自分が今まで使っていたアイシャドウやチークなどのパッケージが変わって

いることに気付きました。遠目から見るだけじゃわからないものや、見れば一目瞭然で色から形まで全て変わっているものもありました。私を持っている旧パッケージと見比べてみると、リボンが無くなったり、バラの花から菊のような少し落ちついた花に形が変わっていたり、全体的にかわいさよりシンブルを優先したデザインにパッケージが変更されているように思いました。不思議に思い、ネットで調べてみると「ジェンダーレス化に伴い誰でも手に取りやすいようにシンプルなおしゃれなパッケージに変更されたのでは？」という意見を聞きました。確かに最近多様性を考慮した物が増えていることもありそれをふまえてこの化粧品も時代に合った見ためにしたのかなと思います。しかし、それと同時に「パッケージを

シンプルにすることは果たして本当に多様性に値するのかわ？」と疑問に思いました。もちろん誰にでも手にできるように考えて開発したのは素晴らしいことだと思えます。でも可愛い元のパッケージが好きなのはどう思うでしょうか。現に私は旧パッケージの方が好きで、パッケージが変わった事により少しさみしい思いもあります。私以外にももしかしたら「可愛い化粧品を持つ自分」になりたかった人もいるかもしれません。「可愛い見たため」女の子らしさ」だからジェンダーフリーにしよう」とシンプルにしたのであれば、それこそ可愛さと女の子という性別をイコールでくっつけた固定概念を肯定していると思えます。

とは言えその考えにより、より手にしやすくなって感

謝している人もいると思います。「多様性に反する考えを排斥することこそある意味人それぞれの考えである「多様性」を否定しかけないことになる」と私は思います。なので、「このシンプルなおしゃれなデザインを開発した人の考えを否定するつもりはありません。きつとそれがその人にとっての多様性の在り方であり、考えなんだと思います。

多様性やジェンダーに配慮したものを形として出すのは目に見えてわかりやすく、それによって助かる人も多くいると思います。でも一方で今までのものや事が好きでそれが多様性という多種多様で十人十色な言葉によって遠ざかってしまうのは良く思わない人もいます。形にすることも大事だけれどまずは一人ひとりの考え方を多様化してみることが大事なのではない

かなと思います。どんな性別
見ため、考えであつても変え
させようとせず、一度聞いて
考え認め合つてみる。そんな
世の中ならもつと素敵にな
れると思います。性別ではな
く個人に着目して色々な人
の色々な意見に触れて、自分
でも見つけられなかった自
分の個性や考えを見つけて
一人ひとりが過ごしていけ
ば「多様性」を尊重した世の
中になれると私は思います。